【Aebs】　ベルトテンションゲージ　（商品コード038651）

ご使用前に必ずお読みください

・用途以外に使用をしないでください。

・ベルト交換/調整は、整備の整った認証工場及び有資格者整備士が行ってください。

・作業前に安全を確保し作業を行ってください。

・商品を加工された場合は保証の対象になりません。

・他社製品との併用・適合についてのお問い合わせはご遠慮下さい。

・製品の仕様・価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。

・製品の不具合に関しましては材料・加工に欠陥があると認められた場合のみお買い上げ後 12 ヶ月を限度に修理・交換をさせて頂きます。但し、正しい取付け使用方法がなされていない場合、修理または交換による一切の費用・機会損失等に関しましては保証対象外となります。予めご了承下さい。

-本説明書は、本製品を破棄されるまで保管下さいますようお願い致します。

対象車両　YAMAHA ＸＰ５００（ＴＭＡＸ５３０）

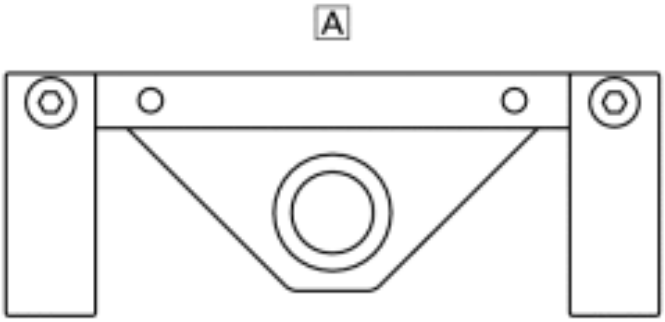
ドライブベルトのたわみ量の調整

要　点

ドライブベルトのたわみ量の調整・点検は、初回は 1000 km (600 mi)、40000 km (24000 mi)までは 10000 km (6000 mi)ごと、それ以降は 5000 km (3000 mi)ごとに行うこと。

1. テンションゲージの測定方法

テンションゲージインジケーターは、測定側“A”およびベルト側の両方に設置されている。



それぞれのインジケーターの目盛りの文字サイズは互いに異なり、以下のように測定する必要がある。

測定側“A”

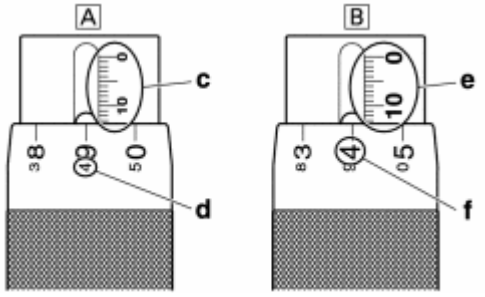
測定側インジケーターの目盛り“c”は、ベルト側の目盛りより小さな文字で記されている。

測定側“A”のハンドルの小さい目盛りの数値“d”を読み取る。

ベルト側“B”

ベルト側インジケーターの目盛り“e”は、測定側の目盛りより大きな文字で記されている。

ベルト側“B”のハンドルの大きい目盛りの数値“f”を読み取る。



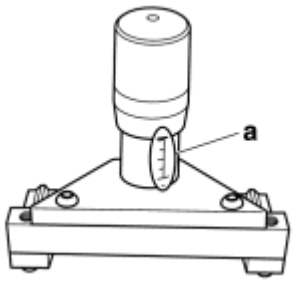
2. テンションゲージを校正する。

要　点

- ベルトテンションゲージの校正は、車両のドライブベルトの測定および調整を行った同一の作業者が行うこと。ドライブベルトのたわみ量の測定前には、必ず校正を行うこと。
- インジケーターはテンションゲージの両側に設置されているが、校正は測定側インジケーター“a”のみを使用して行うこと。

	テンションゲージ 90890-03226

A



A. 測定側の図

a. ハンドル“a”を一杯まで緩め、校正プレート“1”をセットする。

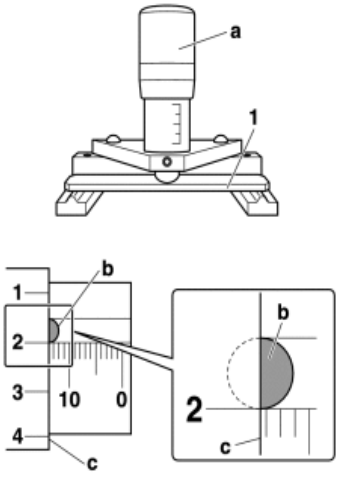
b. テンションゲージのハンドルを回転させ、インジケーター“b”とハンドル“c”の先端が重なるようにする。

c. 重なった位置で測定側の数値を読み取り、記録する。

以下の例では、読み取り値は、“13.2”である。

この値が、テンションゲージの“校正値”である。

d. テンションゲージを充分に緩め、校正プレートを取り外す。



要　点

実際のゲージのハンドルには大小の両方の文字が、印字されている。

この図では、わかりやすくするために片方の大きさの文字のみ表示している。

3. ドライブベルトのたわみ量を測定する。

注　意

ドライブベルトを張りすぎると、エンジンとエンジン内部への負担となる。緩めすぎるとドライブベルトがとびはね、スイングアームに損傷を与え、事故の原因となる。そのため、ドライブベルトのたわみ量のたわみ量は常に標準限度内にあること。

要　点

ドライブベルトのたわみ量は、室温で、さらにドライブベルトが乾いている状態で測定すること。

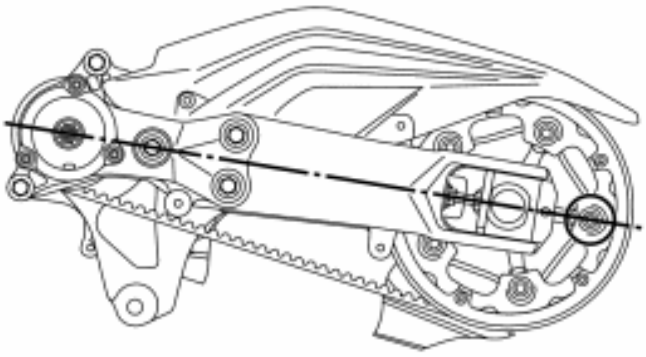
a. 車両を平坦な場所で垂直に立てる。

車両が倒れないよう、確実に支えること。

メインスタンドを使用して車両を立てる。

b. ドライブベルトアッパーガードボルトまたはロアーガードを取り外す。

c. 図示のように、リヤホイールプーリーボルトとスイングアームのセンターラインを合わせる。



d. テンションゲージ“1”をドライブベルトの上側または下側にセットする。

要　点

ドライブベルトのたわみ量の測定は、テンションゲージの突起部“2”とコグ部“3”の間に正しくセットして行う。

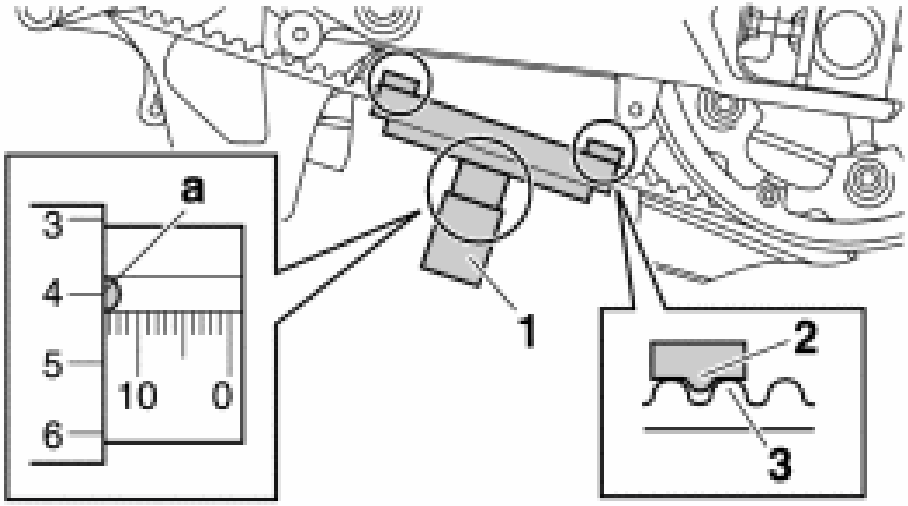
e. 以下の測定をする。

- ドライブベルトのたわみ量

（テンションゲージの測定位置“a”）

規定値外→調整

	ドライブベルトのたわみ量 校正値 +/− 0.2 mm (0.008 in)



4. ドライブベルトのたわみ量を調整する。

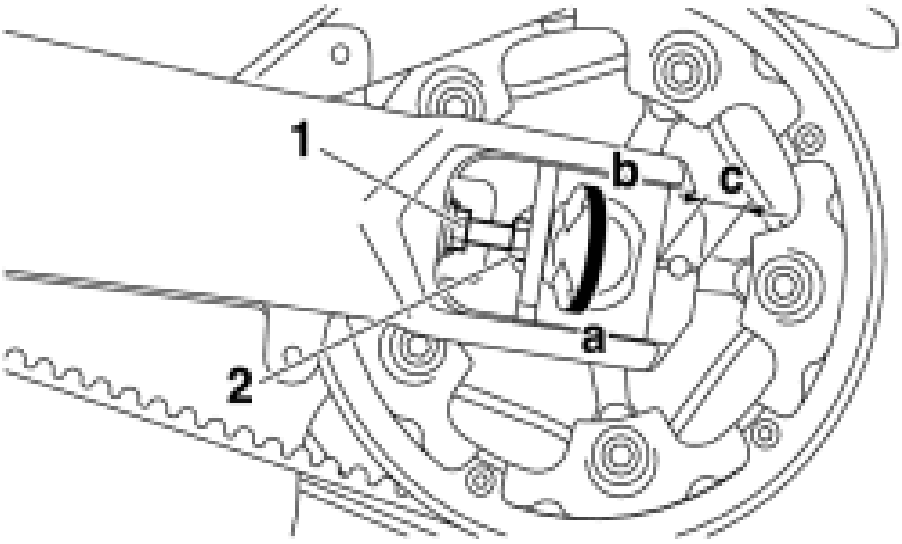
a. ホイールアクスルナットと左右のロックナット“1”を緩める。

b. 左右のアジャスティングボルト“2”を“b”の方向に回し、リヤホイールを前方に押す。

c. 左右の間隔“c”がおよそ 14 mm (0.55 in)になるまで、左右のアジャスティングボルト“2”を“a”の方向に回して、プーラーを後方へ動かす。

d. 左右のアジャスティングボルト“2”を“a”の方向に均等に回して、インジケーターとハンドルの先端の両方を校正値に合わせる。

e. 左右の間隔“c”の差が、0.8 mm (0.03 in)以下になっているか確認する。



f. ホイールアクスルナットを規定のトルク値で締め付ける。

	リヤホイールアクスルナット 160 Nm (16 m·kgf, 116 ft·lbf)

g. ロックナットを規定のトルク値で締め付ける。

	ドライブベルトアジャスティングロックナット 16 Nm (1.6 m·kgf, 12 ft·lbf)

h. 左右の間隔“c”の差が、0.8 mm (0.03 in)以下になっているか確認する。

i. テンションゲージをドライブベルトに戻し、ドライブベルトのたわみ量を再度測定する。

j. ドライブベルトのたわみ量が“校正値 +/- 0.2 mm (0.008 in)範囲内”になるまで、測定および調整を行う。